22年の時を経て復活へ!!
～一円電車を再び!!～

明延鉱山の〝一円電車〟って何？

日本各地に存在していた鉱山鉄道の中で、もっとも有名であったのが明延鉱山の「明神電車」です。〝一円電車〟という愛称で親しまれました。

この電車は、旧明延鉱山から産出される鉱石を約6キロメートル離れた神子畑選鉱場（現在の朝来市）まで運ぶんでいました。

鉱石の運搬のほかに、従業員や家族の通勤、通学のほか、買い物や小学生の修学旅行の足としても利用されていました。

もともとは鉱山の従業員専用列車に便乗ということで、昭和24年に50銭の運賃でしたが、料金改定で1円となりその後長い間、値上げせずに走っていたことから〝一円電車〟と呼ばれるようになりました。

一円電車に使用していた車両は「くろがね号」、「あおば号」、「わかば号」、「しろがね号」、「あかがね号」があり、養父市には「くろがね号」、「しろがね号」、「あかがね号」が保存されています。

一円電車を利用している乗客（写真：左）、従業員（写真：右）

「鉱石の道」明延実行委員会

一円電車に〝夢〟を乗せて

全国の鉄道ファンに親しまれた「一円電車」が旧明延鉱山（大屋町明延）の閉山により静かに幕を閉じてから約22年の時をへて、今、〝一円電車〟を再び動かそうという活動が地元で始まりました。
一円電車復活へ向けての取り組みについて紹介します。

復活へのきっかけは、ふるさと明延まつり

平成19年11月4日、旧明延鉱山の閉山20年の節目を契機に「ふるさとまつり明延」を「鉱石の道明延実行委員会（中尾一郎会長）が中心となって開催されました。

募金者への記念ストラップを作る実行委員会のメンバーら

このまつりで明延鉱山閉山後約22年ぶりに一円電車「くろがね号」を走らせました。

このとき走ったのは、わずか30㍍と非常に短い距離でした。

イベント終了後、関係者や鉄道ファンから「もっと長い距離をいつでも走らせることができないか？」という要望が多く寄せられました。

その後、同実行委員会で、調査、検討など重ね一円電車復活といった大きな夢へ向かって取り組むことになりました。

一円電車の復活計画は、明延振興館（大屋町明延）に展示されている「くろがね号」を修理し、鉱山跡にある約600㍍のトロッコ道を修繕して走らせます。

募金者へ手づくりの記念品を作成

今現在、同実行委員会では、募金者への記念となる、手づくり一円電車ストラップ・「しろがねくん」の製作におわれています。

このストラップは8月から始まった「一円電車募金」に参加していただいた方に記念品として渡すためのもので、2，000個を目標に製作中です。

同実行委員会メンバーは一週間に一度、明延振興館（大屋町明延）に集まり、しろがねくんを作っています。

作っているときは、一円電車が走っている姿を想いながら一つ一つ丁寧に作っています。

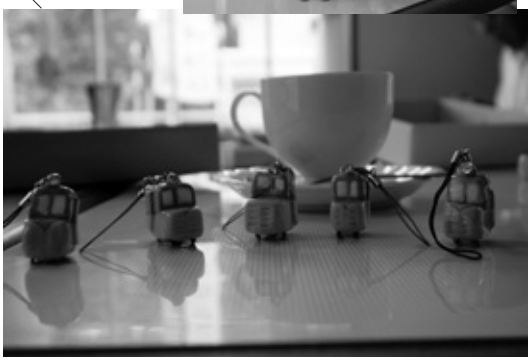
また、現在、同実行委員会では、あけのべ自然学校と大屋地域局の二ヵ所に募金箱も設置し募金を呼びかけていますが、今後増やしていく予定にしているそうです。

募金は一口1円、個人は1，000口、法人や団体は10，000口から、3，000口以上は、一円電車ストラップ「しろがねくん」を贈呈、10，000口以上は、特製記念プレートに名前を記し永久に顕彰します。

募金の問い合わせは、◆大屋地域局内、「鉱石の道」明延実行委員会事務局（☎669－0120）◆あけのべ自然学校（☎669－0120）

あけのべ自然学校で設置されている募金箱

手づくり一円電車ストラップ・「しろがねくん」



正垣智子さん

ストラップ作りは、細かい作業で根気が要りますが、電車の顔が一つ一つすべて違う顔になって出来上がってきます。苦労することも多い作業ですが、そんなところが楽しさの一つです。